

【プログラム5:わたしの考え、あなたの考え そうそう、わかる～】

☆ねらい：子どもに起こるであろう問題等について、自分の子どもはどうかを考える活動を通して、いろいろな考えや対応の仕方があることを知り、これからの子育てに役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	いろいろな考え
時 間	20分
人 数	何人でもできる
活動形態	一斉及びグループ
準備物	○色カード（2色、または2色の付箋（大）） ※色の違いが分かりやすい組合せがよい。
主な活動	①「そうそうわかる～」ゲームをする。 進行役の話題を聞き、「同じ」「あてはまる」意見の場合は赤、「違う」「当てはまらない」場合は青のカードを一斉にあげる。 ②テーマを1つ取り上げ、それに関して考えや意見等を出し合う。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○出題内容に気を付ける。 ・子どもの発達段階に関係したものや現代的課題等から話題を出す。 ・正誤がはっきりしている問題は避ける。
まとめについて	○展開例に示しているポイントは、本プログラムにおける例である。進行役が自身の体験や経験から感じていることを付け加えたり、例示してあるポイントから取捨選択したりして参加者に伝えるようにする。 ○例示のポイントを押し付けないように心がける。 ○参加者に分かりやすい言葉で伝えるように心がける。
備 考	○座談会形式は、参加者同士が親近感を感じるとともに、会場の準備等もなくやりやすい。

【プログラム5 :

わたしの考え、あなたの考え そうそうわかる～】〔20分〕

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 〔キーワード〕 ○いろいろな考え
17分	全体	2. 「そうそうわかる～」を行う。【6分】 方法を知り、練習から始める。 ①話題を聞き、意思表示カードを示す。 ・日頃の様子を考えてカードを出すように話す。 ・あまり深く考えすぎないように話す。 ②同じ意見の場合は赤、違う意見の場合は青のカードを出す。 ③進行役は、全体的なカードの傾向を参加者に伝える。 ④何題か繰り返す。
	グループ	3. 参加者の反応が大きかった話題や取り上げたい話題、深めたい話題等について、グループの人と意見交換をする。【8分】
	全体	4. 感想等を紹介する。【3分】
2分	全体	5. まとめを話す。【2分】 〔ポイント〕 ・物事の考え方には、1つだけでなく多様な考え方がある。 ・自分の考えと異なるものであっても、理由を聞いたり違いを考えたりすることで、自分が気付かなかったことに気付くことができる。 ・いろいろな考え方を知ることで、自分の考えの幅が広がり、子育てに対しての自信も高まる。 ・「多様な考え」も大事だが、「是々非々」の考えも大事である。何でも「多様な考え」でOKというわけではない。 ※子どもの感情や行動等の変化等を話題とする場合、保護者の思いの共有の場ともなる。そのときは、安心感を持たせ、まずは親同士が話せるつながりを作っていくことが大事であることを話す。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「いろいろな考え」をキーワードに講座を進めていきたいと思ひます。

・キーワードを提示する。

2. 「そうそうわかる～」をする

○今から「そうそうわかる～」という、話題を聞いて色カードを出し合う活動をしします。

話題を聞き、「わかる」場合は、「赤」のカードを、「違う」と思ふ場合は「青」のカードを出してください。

話題を聞いて、日頃の様子がどうかを考えて色カードを選んでください。また、あまり深く考えすぎないようにしてください。

○何回か繰り返したあと、話題をしぼって、グループで話を深めていきたいと思ひます。

1度練習してみましよう。

「わたしは、ごはんとパンではごはんの方が好きだ」みなさんはどうですか。赤か青のカードを一斉に出してください。 1、2、3、はい。

○それでは1問目です。

(話題シートを参考に例題を何問か繰り返す。)

①子どもの～……………。

みなさんどうですか。色は決めましたか。赤か青のカードを一斉に出してください。

1、2、3、はい!

○全体的には赤の方が多いようですね。(全体的な傾向を簡単に話す。)

少ない方の色だったからと気にしないでください。

②③④……………。

・色は、2色であれば何色でもよい。カードにしても付箋を使ってもよい。

・話題は、参加者の子どもの年齢に応じたものにする。

3. テーマについて話す

○これからは、グループで話をさせていただこうと思います。

話題は、親子のスキンシップです。親子で一緒にやっていることや、心がけていること等グループの皆さんで自由に話してください。

(参加者の反応が大きかった話題や取り上げたい話題1つについて話してもらう。)

・親子の愛着行動に関しては乳幼児期には欠かせない必要なものなので、テーマにするのは効果的である。

4. 感想等の紹介

○まだ話している途中だと思いますが、グループで出された意見や考えられたこと等を紹介してください。

(時間があればグループの意見を多く紹介する。)

○どうでしたか。いろいろな意見を聞いて参考になりましたか。

・絵本の読み聞かせや手遊び歌、一緒にお風呂に入る等の具体的な例を紹介すると参加者の参考になる。

5. まとめ

○物事の考え方には、1つだけでなく多様な考え方があります。自分の考えと異なるものであっても、理由を聞いたり違いを考えたりすることで、自分が気付かなかったことに気付くことができます。これは、子育てにおいても同じだと言えます。いろいろな考え方、やり方を知ることで、自分の考えの幅が広がり、子育てに対しての自信も高まると思います。

○多様な考え方をすることは大事ですが、「是々非々」の考え方も大事で、何でも「多様な考えでOK」というわけではありません。そこをしっかりと見極め、子育てをしていくことが必要だと思えます。

・「しつけ」だから何でもOK、家庭のやり方だから何でもOKとならないように気を付ける。

〔そうそうわかる～：話題例〕

練習：「わたしは、ごはんとパンでは、ごはんの方が好きだ。」

- ①子どもの対応でどうしたらいいかわからなかったことがある。
- ②子どもの夜泣きに困ったことがある。
- ③子どもは好き嫌いなく何でも食べる。
- ④子どもは寝起きがよい。
- ⑤子どもは寝付くまでに時間がかかる。
- ⑥子どもはテレビを見たがったりゲームをしたがったりする。
- ⑦子どもは本を読むのが好きだ。(読んでもらうのが好きだ。)

※話題は、子どもの発達段階に応じた話題に変更する。

いくつかの話題の中から、参加者の反応が大きかった話題を取り上げ、次のグループトークへつなげる。

【話題づくりの留意点】

○保護者が子育ての自信をなくすような話題は避ける。

例：スマホは子どもによくない影響を及ぼすので、絶対にさわらせたらいけない。

〔理由〕

状況に応じてさわらせている保護者がマイナス的に考えたり、他の参加者の目を気にしたりすることがあるので、その時の状況によっては、進行役はまとめるのに困る。

※スマホが及ぼす影響はあるが、スマホの利便性やその時の状況でさわらせざるを得ない場合もある等、幅広い視点を進行役が持っておくことが大事である。

※子どもの感情や行動等の変化（地震、余震等を経験し、その事によって子どもの行動に変化がみられ、例えば、怒りっぽくなった、1人でトイレに行けなくなった、大人から離れたがらなくなった等）等を話題とする場合、保護者の思いの共有の場ともなる。そのときは、安心感を持たせ、まずは親同士が話せるつながりを作っていくことが大事であることを話す。